

# Marshall

AMPLIFICATION

1959SLP

1987X

2245 'JTM45'

1962 'Bluesbreaker'

Owners Manual

# Marshall



## From the Chairman

マーシャルのヴィンテージ・リイシュー版アンプをお買い上げいただきありがとうございます。

マーシャルの評判はさまざまな要素の上に築かれてきましたが、これまで長く愛されてきたのは、私たちのアンプの設計と製造の基本にあるコンセプトが時代を越えて重要な意味を持ち続けてきたからだと思えます。その上に、確かな技術、信頼性、スタイリッシュなデザイン、そして何よりも、すばらしいトーンがあります。マーシャルのヴィンテージ・アンプに多くのギタリストがいまも惹かれるのは、これらのモデルが今日も重要な意味を持ち続けている証明です。

お買い上げいただいたアンプは、もともと1960年代に発売されたものです。その当時、ポピュラー音楽のスタイルとサウンドが目まぐるしく移り変わり、プレイヤーたちは常に音楽の限界に挑戦し、その領域を押し広げていました。これらのアンプは、この音楽革命が始まったときから大きな役割を果たしていました。ビート・タウンゼンドやエリック・クラプトン、ジミ・ヘンドリックスから、ジェフ・ベックやポール・コゾフまで、これらのアンプのナチュラルなディストーションの可能性を開拓し、最高の“トーン”で知られるプレイヤーたちの名を連ねると、まるでギタリストの名士録のようです。

今回のリイシューは、可能なかぎり忠実にオリジナル・モデルの外観とトーンを再現したものです。英国においてひとつずつ手作業でつくりあげられたこれらの優れたアンプは、バーチ材の合板をフィンガー・ジョイントによって接合したキャビネット、手細工で溶接したシャーシ、手作業で配線したポテンシオメーターやバルブ・ベース、そして最高品質のプリント基板およびコンポーネントによって構成されています。

クラシックなマーシャル・トーンを愛好する偉大なプレイヤーたちの仲間入りをした皆さんの音楽活動の成功を祈っております。



## 警告！ — 安全にご使用いただくために

警告：このアンプはアースを接地しなければなりません。

- A 電源を入れる前に、本書を熟読してください。
- B 電源コードは付属のものをご使用ください。交換が必要な場合は、ご購入の店を通じてご依頼ください。
- C ヒューズを取り外したり、定格外のヒューズを使用したりしないでください。
- D アンプのシャーシを外さないでください。内部にはお客様の取り扱いできる部分はありません。
- E ヒューズやバルブの交換を含め、アンプの修理とサービスは、ご購入の店を通じてご依頼ください。電源コードまたはプラグが破損したり、アンプの上に液体をこぼしたり、長時間アンプが湿気にさらされたり、乱暴な取り扱いをしたりすることは故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- F 湿気が多い場所やぬれた状態でアンプを使用しないでください。液体の入った容器をアンプの上に置かないでください。
- G 落雷時や長時間使用しない場合には必ず電源プラグを外してください。
- H 電源コードは、大切に取り扱いってください。プラグとコンセントの接続部分、アンプとコードの接合部分などを踏みつけたり、何かに挟んだりしないように注意してください。
- I ラウドスピーカーを接続していない状態でアンプに電源を入れないでください。
- J 外部キャビネットはインピーダンスが整合するものを使用してください。

注：このアンプは欧州連合の電磁場適合性（EMC）規制法 [環境E1、E2、E3 EN 55103-1/2] および低電圧機器規制法に準拠しています。

警告：アンプを許可なく変更、改修した場合には、このアンプを使用できなくなることがあります。

注：1987X、1959SLP、1962（ブルースプレーカー）、2245（JTM45）の接続に用いるオーディオ・ケーブルは、スピーカー・ケーブルを除き、長さ10メートル以下の高品質のシールド・ケーブルを用いてください。  
これらのユニットとエクステンション・キャビネットの接続には、ノンシールド・ケーブルを用いてください。

警告：通気孔をふさがしないでください。アンプは風通しのよいところで使用してください。



米国のみ — 有極プラグまたは接地タイプ（3芯）のプラグは正しくご使用ください。有極プラグには幅の異なる2枚のブレードがあります。接地タイプのプラグには2枚のブレードの他に接地用のブレード（アース）がついています。幅の広い接地用のブレードは、安全にご使用いただくためのものです。付属のプラグがコンセントの形と合わない場合は電気技術者に相談し、コンセントを新しいものに取り換えてください。

すべての注意書きに従い、警告を守ってください

この注意書きは保存してください



43

### はじめに

マーシャル・リイシュー・シリーズは、100ワットの1959SLPヘッド、50ワットの1987Xヘッド、2245 (JTM45) ヘッド、そして1962 (ブルースプレーカー) コンボによって構成されています。いずれも今日知られるエレクトリック・ギターのサウンドを形作ったオリジナルを忠実に再現したものです。

これらのアンプに共通の特徴は、簡単な操作とナチュラルなバルブ・トーンです。そのトレードマークである美しく有機的で生気にあふれるオーバードライブを得る方法はひとつ、パワーを全開にすることです。その結果得られるのは、不要な信号回路で濁されることのない、ピュアで荘厳なトーンです。ソロでは、クラシックな味わいあふれる大きくて丸みのある、温かいサステインが得られます。コード・ワークでは、ナチュラルにブレイクし、迫力あるパーカッシブなアタックが得られ、ノートのひとつひとつがすばらしく音楽的なクランチで響きます。

### エフェクト・ループ

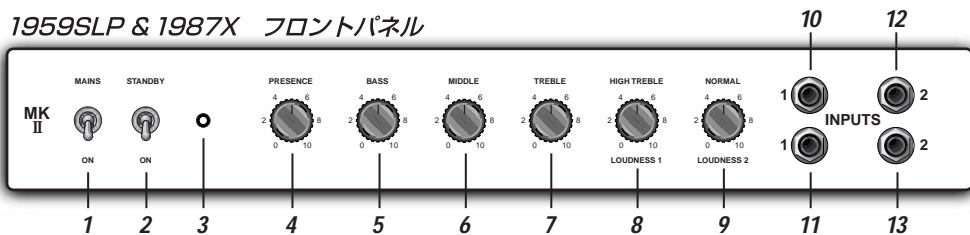
皆さんの強い要望にお応えして、1959SLPおよび1987Xモデルには、透き通ったサウンドが得られるエフェクト・ループを搭載しました。この回路はギター・サウンドに色をつけたくないよう設計されているので、トーンはピュアなままです。バイパス・スイッチにより、この回路を完全に外すこともできます。エフェクト・ループのレベル・セレクターにより、エフェクト・プロセッサーやフロアペダルとの互換性も保証されています。



44

# 1959SLP & 1987X

## 1959SLP & 1987X フロントパネル



### 1 電源スイッチ

アンプの電源をオン/オフします。アンプを移動するときは、必ず電源をオフにし、電源コードを電源から外してください。

### 2 スタンバイ・スイッチ

スタンバイ・スイッチを電源スイッチ（1項）と合わせて使うと、アンプを使用前に暖めて、出力バルブの寿命を延ばすことができます。アンプを作動させるときは必ず電源スイッチ（1項）を先に入れてください。こうすることによってバルブを適正な温度に暖めるために必要な電圧が適用されます。2分ほど待ってバルブが適正な温度に暖まったら、スタンバイスイッチを入れます。こうすれば出力バルブが信号を通し、音を出すために必要な高電圧が適用されます。演奏の中休みにスタンバイ・スイッチだけをオン/オフするとバルブの寿命を延ばすことができます。また、電源を完全に切るときには、電源スイッチ（1項）より前にスタンバイ・スイッチを切ってください。

### 3 ネオン

ネオンが点灯していればアンプの電源はオンに、点灯していなければオフの状態にあります。

### 4 プレゼンス・コントロール

ギター・トーンに高周波の信号を加えて、引き締まった歯切れのいいサウンドにします。設定を上げると切れ味と“存在感”が強くなります。

### 5 ベース・コントロール

トーンの低音域、低周波の信号の量を調節します。

### 6 ミドル・コントロール

アンプの中音域を調節します。設定を上げると、ギター・サウンドに厚みが出ます。設定を下げると、ミドルを“スクープ”した薄く鋭いトーンが得られます。

### 7 トレブル・コントロール

トーンの高周波を調節します。設定を上げると、明るいトーンになります。

（注：トーンのネットワークは非常にインタラクティブなもので、ひとつのコントロールを調節すると他のコントロールとの相互作用で音の輪廓が変化することがあります。さまざまな設定を試して理想のトーンを見つけてください。）

### 8 ハイ・トレブル・ラウドネス1

チャンネル1全体の出力レベルを調節します。  
注：このチャンネルは、チャンネル2よりトレブルのレスポンスを高く設定してあります。

### 9 ノーマル・ラウドネス2

チャンネル2全体の出力レベルを調節します。  
注：チャンネル2は、普通のレスポンスに設定してあります。

### 10 入力ジャック

チャンネル1にギターを接続します。  
注：ほとんどのギタリストはチャンネル1のひとつめの入力を使用しますが、他の入力も試してみるといいでしょう。ギタリストによっては、チャンネル1のふたつめの入力とチャンネル2のひとつめの入力を短いシールド・ケーブルでつないで、ふたつのチャンネルをミックスします。この状態でギターをチャンネル1のひとつめの入力（10項）に接続すると、両チャンネルの特徴をミックスしてより柔軟な音作りを実現できます（図参照）。



### 11 入力ジャック

チャンネル1の低感度入力にギターを接続します。

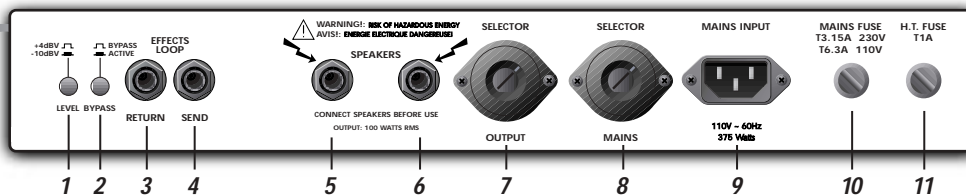
### 12 入力ジャック

チャンネル2にギターを接続します。

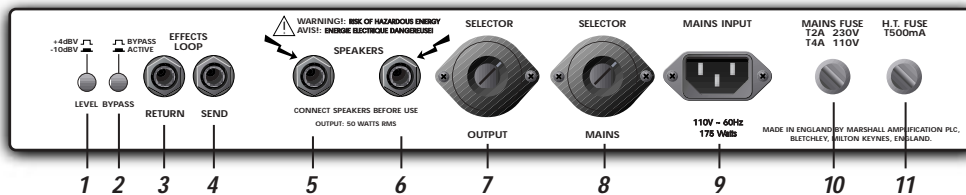
### 13 入力ジャック

チャンネル2の低感度入力にギターを接続します。

## 1959SLP リアパネル



## 1987X リアパネル



### 1 レベル

シリーズ・エフェクト・ループに接続されたエフェクターのタイプに合わせてエフェクト・ループのレベルのいづれかを選択します。高いレベル（+4dBV）はエフェクト・プロセッサに、低いレベル（-10dBV）はフロアペダルに適しています。

### 2 バイパス

このスイッチでエフェクト・ループの回路を完全に外し、トーンをピュアなままに保つことができます。

### 3/4 エフェクト・ループ

さらに柔軟な音作りを実現するために外部のエフェクターをアンプに接続する場合に、このエフェクト・ループにフロアペダルまたはエフェクト・プロセッサを直接接続し、レベル（1項）で適切な作動レベルを選択できます。一般にディストーションやワウワウなどのエフェクトは、ループではなく、ギターとアンプの入力のあいだへの接続に適しています。コーラス、ディレイ、リバーブなど、遅延系、変調系のエフェクトは、ループへの接続に適しています。信号はソケット4（エフェクト・送）を經由してアンプからエフェクト・プロセッサ／フロアペダルの入力へ送られ、エフェクト・プロセッサ／フロアペダルの出力からソケット3（エフェクト・リターン）を經由してアンプへ返されます。

### 5/6 ラウドスピーカー出力

スピーカー・キャビネットなど外部の負荷に接続します（7項参照）。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

### 7 出力セレクター

アンプの出力をスピーカーのインピーダンスに整合させます。オールバルブ・アンプの場合、作動中に何かしらの負荷をアンプにかけると、選択したインピーダンスが使用中のスピーカー・

キャビネットの合計インピーダンスと一致していることが不可欠です。たとえば、16Ωキャビネット1台にアンプを接続している場合、アンプのインピーダンスも16Ωに設定します。16Ωキャビネット2台に接続している場合は8Ω、8Ωキャビネット2台に接続している場合は4Ωにアンプを設定します。このようにしてインピーダンスを整合させなければアンプの破損につながりますのでご注意ください。セレクターの設定を変更する前に、アンプの電源を完全にオフにしてください。

### 8 電源セレクター

アンプの電源トランスを入力する電源の電圧と整合させます。回転式の電源セレクターを、アンプを使用する国の電圧に合わせて設定してください。電源の入力電圧がわからない場合は、ご購入の店にお問い合わせください。セレクターの設定を変更する前に、アンプの電源を完全にオフにしてください。

### 9 電源入力

付属の取り外し可能な電源コードを接続します。ご使用のアンプの入力電圧の定格はリアパネルに表示されています。初めて電源に接続する際には、アンプと電源の電圧が整合していることを確認してください。疑問があるときはご購入の店でご相談ください。230/220Vから110V、あるいは110Vから230/220Vへ切り替える場合は、電源ヒューズを整合するものに交換してください。詳細についてはリアパネルを参照してください。

### 10 電源ヒューズ

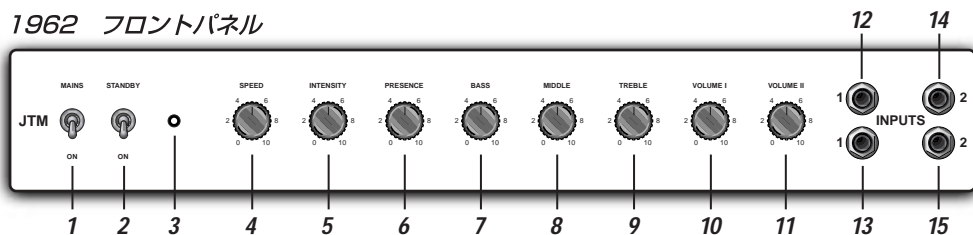
電源ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

### 11 高電圧ヒューズ

高電圧ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

# 1962 (ブルースプレーカー

## 1962 フロントパネル



### 1 電源スイッチ

アンプの電源をオン/オフします。アンプを移動するときは、必ず電源をオフにし、電源コードを電源から外してください。

### 2 スタンバイ・スイッチ

スタンバイ・スイッチを電源スイッチ（1項）と合わせて使うと、アンプを使用前に暖めて、出力バルブの寿命を延ばすことができます。アンプを作動させるときは必ず電源スイッチ（1項）を先に入れてください。こうすることによってバルブを適正な温度に暖めるために必要な電圧が適用されます。2分ほど待ってバルブが適正な温度に暖まったら、スタンバイスイッチを入れます。こうすれば出力バルブが信号を通し、音を出すために必要な高電圧が適用されます。演奏の中休みにスタンバイ・スイッチだけをオン/オフするとバルブの寿命を延ばすことができます。また、電源を完全に切るときには、電源スイッチ（1項）より前にスタンバイ・スイッチを切ってください。

### 3 ネオン

ネオンが点灯していればアンプの電源はオンに、点灯していなければオフの状態にあります。

### 4 スピード・コントロール

トレモロ・エフェクトを使用するときの振幅スピードを調節します。

### 5 インテンシティ・コントロール

トレモロ・エフェクトを使用するときの振幅の強度（エフェクトのデプス）を調節します。  
注：トレモロ・エフェクトはブルースプレーカーコンポのチャンネル2に接続している場合にのみ作動します。

### 6 プレゼンス・コントロール

ギター・トーンに高周波の信号を加えて、引き締まった歯切れのいいサウンドにします。設定を上げると切れ味と“存在感”が強くなります。

### 7 ベース・コントロール

トーンの低音域、低周波の信号の量を調節します。

### 8 ミドル・コントロール

アンプの中音域を調節します。設定を上げる

と、ギター・サウンドに厚みが出ます。設定を下げると、ミドルを“スクープ”した薄く鋭いトーンが得られます。

### 9 トレブル・コントロール

トーンの高周波を調節します。設定を上げると、明るいトーンになります。  
（注：トーンのネットワークは非常にインタラクティブなもので、ひとつのコントロールを調節すると他のコントロールとの相互作用で音の輪郭が変化することがあります。さまざまな設定を試して理想のトーンを見つけてください。）

### 10 ポリウム I

チャンネル1全体の出力レベルを調節します。  
注：このチャンネルは、チャンネル2よりトレブルのレスポンスを高く設定してあります。

### 11 ポリウム II

チャンネル2全体の出力レベルを調節します。  
注：チャンネル2は、普通のレスポンスに設定してあります。

### 12 入力ジャック

チャンネル1にギターを接続します。  
注：ほとんどのギタリストはチャンネル1のひとつめの入力を使用しますが、他の入力も試してみるといいでしょう。ギタリストによっては、チャンネル1のふたつめの入力とチャンネル2のひとつめの入力を短いシールド・ケーブルでつないで、ふたつのチャンネルをミックスします。この状態でギターをチャンネル1のひとつめの入力（12項）に接続すると、両チャンネルの特徴をミックスしてより柔軟な音作りを実現できます（図参照）。



### 13 入力ジャック

チャンネル1の低感度入力にギターを接続します。

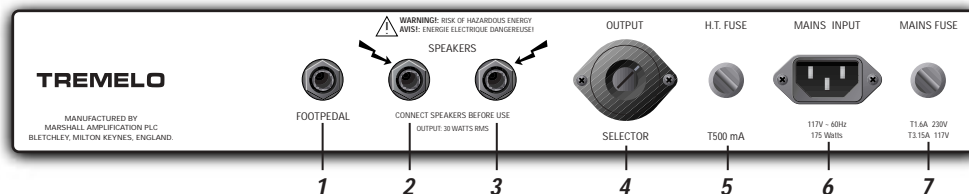
### 14 入力ジャック

チャンネル2にギターを接続します。

### 15 入力ジャック

チャンネル2の低感度入力にギターを接続します。

## 1962 リアパネル



### 1 フットペダル・ジャック

付属のフットペダルを接続し、トレモロをオン/オフします。

注：トレモロ・エフェクトはチャンネル2に接続している場合にのみ作動します。

### 2/3 ラウドスピーカー出力

スピーカー・キャビネットなど外部の負荷に接続します（4項参照）。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

### 4 出力セクター

アンプの出力をスピーカーのインピーダンスに整合させます。オールバルブ・アンプの場合、作動中に何かしらの負荷をアンプにかけること、選択したインピーダンスが使用中のスピーカー・キャビネットの合計インピーダンスと一致していることが不可欠です。たとえば、16Ωキャビネット1台にアンプを接続している場合、アンプのインピーダンスも16Ωに設定します。16Ωキャビネット2台に接続している場合は8Ω、8Ωキャビネット2台に接続している場合は4Ωにアンプを設定します。このようにしてインピーダンスを整合させなければアンプの破損につながりますのでご注意ください。セクターの設定を変更する前に、アンプの電源を完全にオフにしてください。

### 5 高電圧ヒューズ

高電圧ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

### 6 電源入力

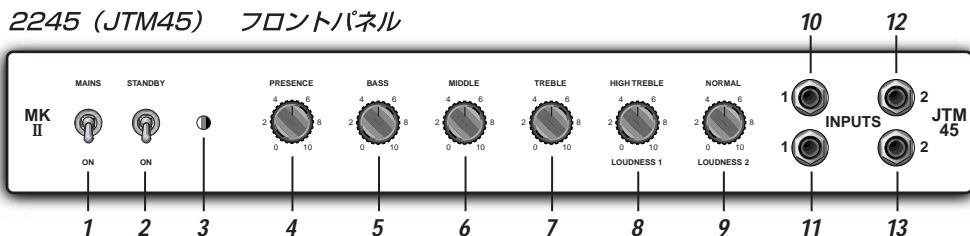
付属の取り外し可能な電源コードを接続します。ご使用のアンプの入力電圧の定格はリアパネルに表示されています。初めて電源に接続する際には、アンプと電源の電圧が整合していることを確認してください。疑問があるときはご購入の店でご相談ください。

### 7 電源ヒューズ

電源ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

# 2245 (JTM45)

## 2245 (JTM45) フロントパネル



### 1 電源スイッチ

アンプの電源をオン/オフします。アンプを移動するときは、必ず電源をオフにし、電源コードを電源から外してください。

### 2 スタンバイ・スイッチ

スタンバイ・スイッチを電源スイッチ (1項) と合わせて使うと、アンプを使用前に暖めて、出力バルブの寿命を延ばすことができます。アンプを作動させるときは必ず電源スイッチ (1項) を先に入れてください。こうすることによってバルブを適正な温度に暖めるために必要な電圧が適用されます。2分ほど待ってバルブが適正な温度に暖まったら、スタンバイスイッチを入れます。こうすれば出力バルブが信号を通し、音を出すために必要な高電圧が適用されます。演奏の休憩みにスタンバイ・スイッチだけをオン/オフするとバルブの寿命を延ばすことができます。また、電源を完全に切るときには、電源スイッチ (1項) より前にスタンバイ・スイッチを切ってください。

### 3 ネオン

ネオンが点灯していればアンプの電源はオンに、点灯していなければオフの状態にあります。

### 4 プレゼンス・コントロール

ギター・トーンに高周波の信号を加えて、引き締まった歯切れのいいサウンドにします。設定を上げると切れ味と“存在感”が強くなります。

### 5 ベース・コントロール

トーンの低音域、低周波の信号の量を調節します。

### 6 ミドル・コントロール

アンプの中音域を調節します。設定を上げると、ギター・サウンドに厚みが出ます。設定を下げると、ミドルを“スクープ”した薄く鋭いトーンが得られます。

### 7 トレブル・コントロール

トーンの高周波を調節します。設定を上げると、明るいトーンになります。  
(注：トーンのネットワークは非常にインタラクティブなもので、ひとつのコントロールを調節すると他のコントロールとの相互作用で音の輪郭が変化することがあります。さまざまな設定を試して理想のトーンを見つけてください。)

### 8 ハイ・トレブル・ラウドネス 1

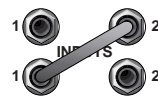
チャンネル 1 全体の出力レベルを調節します。  
注：このチャンネルは、チャンネル 2 よりトレブルのレスポンスを高く設定してあります。

### 9 ノーマル・ラウドネス 2

チャンネル 2 全体の出力レベルを調節します。  
注：チャンネル 2 は、普通のレスポンスに設定してあります。

### 10 入力ジャック

チャンネル 1 にギターを接続します。  
注：ほとんどのギタリストはチャンネル 1 のひとつめの入力を使用しますが、他の入力も試してみるといいでしょう。ギタリストによっては、チャンネル 1 のふたつめの入力とチャンネル 2 のひとつめの入力を短いシールド・ケーブルでつないで、ふたつのチャンネルをミックスします。この状態でギターをチャンネル 1 のひとつめの入力 (10項) に接続すると、両チャンネルの特徴をミックスしてより柔軟な音作りを実現できます (図参照)。



### 11 入力ジャック

チャンネル 1 の低感度入力にギターを接続します。

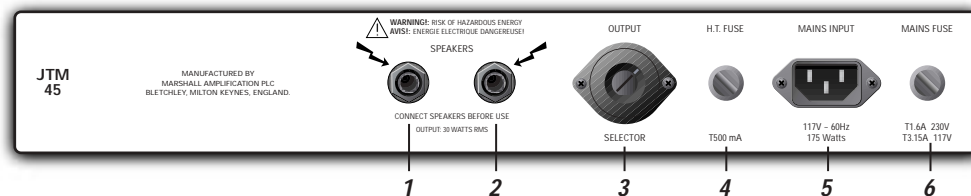
### 12 入力ジャック

チャンネル 2 にギターを接続します。

### 13 入力ジャック

チャンネル 2 の低感度入力にギターを接続します。

## 2245 (JTM45) リアパネル



### 1/2 ラウドスピーカー出力

スピーカー・キャビネットなど外部の負荷に接続します (3項参照)。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

### 3 出力セレクター

アンプの出力をスピーカーのインピーダンスに整合させます。オールバルブ・アンプの場合、作動中に何かしらの負荷をアンプにかけること、選択したインピーダンスが使用中のスピーカー・キャビネットの合計インピーダンスと一致していることが不可欠です。たとえば、16Ωキャビネット 1 台にアンプを接続している場合、アンプのインピーダンスも16Ωに設定します。16Ωキャビネット 2 台に接続している場合は8Ω、8Ωキャビネット 2 台に接続している場合は4Ωにアンプを設定します。このようにしてインピーダンスを整合させなければアンプの破損につながりますのでご注意ください。セレクターの設定を変更する前に、アンプの電源を完全にオフにしてください。

### 4 高電圧ヒューズ

高電圧ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

### 5 電源入力

付属の取り外し可能な電源コードを接続します。ご使用のアンプの入力電圧の定格はリアパネルに表示されています。初めて電源に接続する際には、アンプと電源の電圧が整合していることを確認してください。疑問があるときはご購入の店でご相談ください。

### 6 電源ヒューズ

電源ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。42ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。